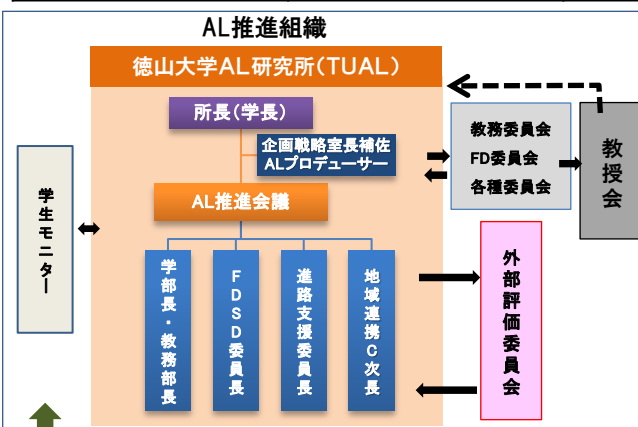


大学等名：徳山大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

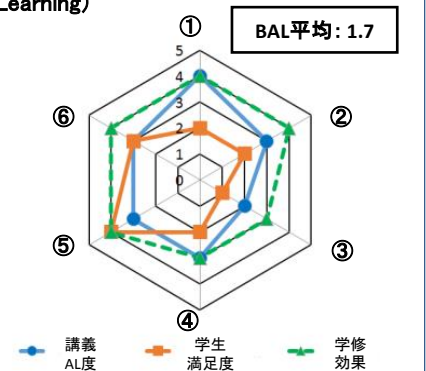
取組概要： 本学は本年度、4年間の継続的な学びとしてのアクティブラーニング(AL)の体系化を教育改革の柱に掲げ、「教養ゼミⅠ」におけるPBLリテラシーの標準化や「地域ゼミ」の新設に着手した。本事業では、その中核となる地域課題をテーマとするPBLを一層促進するとともに、一般的なAL手法の開発とFD・SD活動をとおして、大学講義全般へのALの浸透を図る全学的・組織的な取組を実施し、教育の質の転換へ向けた改革の実現を強く加速・促進する。

教育改革 アクティブラーニング(AL)を4年間の継続的な学びとして体系化	ALのベースとなる、認知的・社会的汎用能力の育成 地域課題をテーマとするAL	1年次	2年次	3年次	4年次
		「EQⅠ」（セルフコントロール・コミュニケーション） 「行動マネジメント」 「教養ゼミⅠ」 PBLリテラシー（ALへの導入）教育の標準化	「EQⅡ」（チームビルディング・リーダーシップ） 「問題発見と解決」 「地域ゼミ」 地域課題をテーマとするALの体験	「EQⅢ」（ソシヤリティー） 「意思決定科学」 「プレゼンテーション」 「専門ゼミⅠ・Ⅱ」 専門知識活用による本格的PBL	



講義のAL度・学生満足度・学修効果の把握：BAL (Barometer of Active Learning)

AL度数 (BAL)	授業形態	具体的な内容
レベル0	一方向的な授業	講義のみ
低次	レベル1	知識定着のためのALⅠ ①読書、感想・意見の発表 ②視聴覚教材の利用
	レベル2	知識定着のためのALⅡ ③感想・意見の文章化、演習・実験、④グループ討論Ⅰ
高次	レベル3	課題解決に向けたALⅠ ⑤グループ討論Ⅱ、情報取得・実地活動(調査)、データ解析
	レベル4	課題解決に向けたALⅡ ⑥結論・提言、外部発表(プレゼン)活動、ピア学修



上記AL化手法①～⑥導入に対する、各講義の

- ・「講義AL度」「学生満足度」「学修効果」(⇔ルーブリック開発)の測定・公開
- ・「BAL平均(全15(30)回に亘ってのAL度数の平均値)」の測定・公開

- AL研究所とAL推進会議(改革推進の中核)
 - 各委員会・部局と連携し、改革のPDCAを実行・管理
 - AL教育の推進と実施状況・教育効果の測定
 - FD・SD活動(ALに対する教職員意識の醸成)
 - 地域の自治体・企業等、外部機関との連携
 - 新AL手法の開発
- モニタリングシステム
 - 学生の視点から授業のAL化を評価
- 外部AL評価委員会
 - 外部のAL先進研究者を加えて構成
 - 目標達成度・事業実施状況をチェック

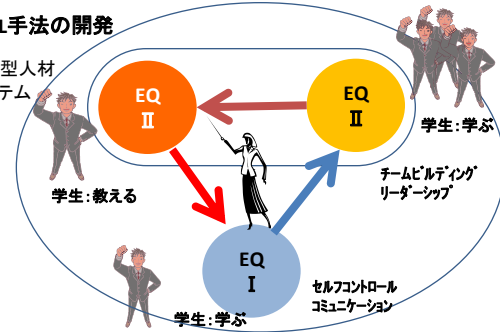
教育改革の3つの軸



- AL教育の推進とその効果の可視化
- AL手法の研究開発と共有化 (FD・SD)
- AL推進に向けた教職員意識の醸成

先進的AL手法の開発

例：循環型人材教育システム



- 循環型人材教育(ピアサポート制活用)
- CASK2.0 (Cyber Campus) 活用による Flipped Classroom の促進
- PBI (Project Based Internship) の促進 etc.

【事業の成果】	26年度(実績値)	28年度(実績値)	31年度(目標値)
ALを導入した授業科目の割合	75.5%	87.4%	95.0%
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	82.5%	99.7%	100.0%
学生1人のAL科目に関する授業外学修時間	5.0時間/週	13.9時間/週	20時間/週

■ 「AL教育全般」の底上げと、改革のPDCA体制の構築により、「地域課題をテーマとするPBL」を中心とする大学の教育改革が加速・促進。AL教育の評価制度の確立が、大学全体の「教育の質の転換」に寄与。

■ 課題解決に向け主体的に考え取り組んでいく態度・意欲・能力を備え、地域活性化に寄与する人材の育成と輩出が実現し、大学のCOC機能強化につながる。